

寺 報 善 巧

発 行

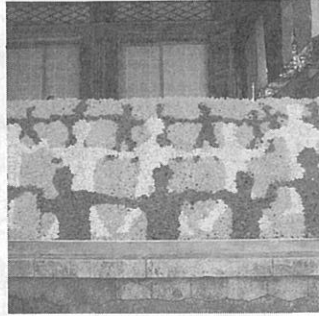
〒 938 富山県下新川郡
宇奈月町 浦山 4 9 7
白雪山 善 巧 寺
☎ 宇奈月 0765(65)0055

第 11 回 慶 び の 春 花 の 誕 生 会

初参り、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。

四月二十九日 午前十時より

美しいチューリップの花がざりにつつまれて、あらゆるものみなすべてのいのちの誕生をお祝いする日です。この一年の間に生まれた赤ちゃんは、是非とも初参式をうけて下さい。



一 日 お講・下村
六 日 雪ん子劇団入団式
一 二 日 日曜学校入校式
一 六 日 お講・栗虫
二 六 日 日曜学校お花つみ
二 九 日 花の誕生会

寺
こよみ
四 月



花御堂—4月29日、善巧寺は10万個のチューリップで飾られます

四月は、新入社・新入学の月です。皆様のお宅でも、就職戦線に突破して、新しく社会人となられた方、入学試験に合格して大学生、高校生になられた方、又小学校に入って新しいランドセルを背負う方がいらつしやると思います。蔭ながらお祝いの言葉を申し上げます。善巧寺の三人の孫達も、長女は大学へ、長男は中学へ二年へ、次男は中学へと夫々無事に進級進学致しました。

四月は、此の様な人生けじめの月でもあると共に、農作業開始の月、たねまきの月でもあるのです。善巧寺の門徒衆は、大半がお百姓さんです。皆さんの祖先が、何時の日か、黒部川沿いの土地に入り込み、田を耕やし、稲作に従事して今日に到っております。

永い冬を過し、雪の消えるのを待ち兼ねて、四月の声を聞くや遅しと、野良着姿になって田圃に出て行く姿を、此の私も、ずっと一種の感慨をもつて拝見させて頂いて来ました。

篤信の皆様方は、お説教の席で、「おみのり」という言葉、「おあじわい」という日本語を御聞きになつたでしょう。稲の成育、収穫、白米の味わいは、農業に従事する人

た ね ま き

達と切っても切れないことです。そして此の言葉は、同時に、心の田にお念仏の種子が蒔かれ、日と共に、月と共に、大きく稔り豊かに育くまれて、お念仏の悦びを感謝するに至る過程を表現している言葉です。

「親鸞伝繪」には、次のように記されて居ります。

「聖人越後国より常陸国に越て笠間郡稲田郷と云所に隠居し給。幽棲を占といへども道俗跡をたづね蓬戸を閉といへども貴賤を隔に。仏法弘通の本懐ここに成就し、衆生利益の宿念たちまちに満足す」

関東地方の地図を開いて見ますと、稲田郷を中心に、親鸞聖人の行跡は、関東平野の各地に展開されており、其処に住む人々の中でも、農作業に従事するお百姓さん方を中心にお念仏のみ教えが説かれたことと思われまふ。そのみ教えが、今や此の黒部扇状地帯に、たねまきする北陸の農民の心に、豊かに稔っているのしょう。

「心の田のたねまき」四月こそは「たねまき」の季節です。

住 職 雪山俊之



空華忌記念講演 ②

行信教教授

利 井 明 弘 師

明教院僧銘和上がおられたところの善巧寺に、空華廬というお念仏を学ぶ学校がありました。そこで著された書物の中に「正信偈評註」というのがあります。

これは、親鸞聖人の書かれたお正信偈についての多くの和上方の研究書がありますが、それについて、僧銘師が、批評、註釈を加えられたものであります。

でそれを読ませていただきますと、学問的にも、空華学派の受け取り方のようなものがはつきりするのであります。これはまあ宗学を研究する学僧たちに向けての講義のようなものですから、少々むずかしいところがある。その僧銘師が六十一歳でなくなられる天明三年の三月から、これをくわだいて、お同行に向けてお話しなさっている。それが「正信念仏偈聞書」なんです。今回の縁でこの両著を読ませていただきましたが、さすがに明教

でなく、第一のご恩報謝以外にないのである」とこうおっしゃっているのではありません。

これはなんともありがたいところでありますので、少し、わかりやすくお話ししてみたいと思います。

大阪のある有名な大学の教授がね、おもしろい研究をなさっているのではありません。それは何かというと、箕面という所にいるサルがいったいどこまで移動するものかと、それを調べていらつしやる。

大阪にいるサルの行動範囲はどんなものか—研究結果をうかがいますと、なんと、山口県まで行っている、ボスザルは動かんそうですが、はぐれザルは本州のはしまで出かけているんです。この話を

私はハッとしました。

「いや、ごめんなさい。私の問いが間違っていました」とあやまっただけです。

ねえ、みなさん、生きるということとはね、これのためにとか、あれのために生きるというのはウソですよ。生きるというのはね、もつともつと遠いところをながめ、もつともつと大きなものに近づいてあることを感じさせていたでくという、そういうものにふれていくということが生きるということではないでしょうか。

私たちはすぐに、子供のために生きるとか、仕事のために生きるとかいいますが、それなら、子供が大きくなって離れていったらどうするの。仕事が終わったたらどうするの。

僧銘師述「正信念仏偈聞書」を味わう

聞いてね、へえーと思うと同時にふと思つて、ポロッとそれをその先生にいつてしまつたんです。

「先生、おもしろい研究ですけど、そんな研究して、一体何かなるんですか。何のためにそんな調査をなさっているんですか？」

「はあ、何もならんでしような。何のためにもありません。けどこれは、私の夢でして、そう、ロマンというやつですな」

うするの。

外をみると、境内にはゲートボールのコートがありますね。あれも、健康のためとか、親睦のためとかね、ためというのをはつきりしていますよね。ところが、じゃあ、そのゲートボールもできないようになったら、生きがいはないんですか？

世間ではよくいます。老後に趣味を持とうとか生きがいを持つうなんてね。そりやいいことです

けどね、生きがいというと、何かをするということだけなんです。うが。それだったら、その何かが出来なくなつたらどうするんですか？ ゲートボールもできない。寝たきりになつたというとき、それでも、ありがたい、それでも、もつたない。それでも生かしていただいてすばらしい、といえるかどうか、これが問題なんです。ね。

私はそういう意味でね、この大学の先生、サルの生態を追つていて、「それは何のためでもない、したいだけなんだ。ロマンなんです」とおっしゃる。すばらしい生き方だと思ふんです。

じつはね、僧銘和上もね、そのことをおっしゃっているんです。正信念仏偈を親鸞聖人が書かれたのは、ありがたいとございますという心をあらわさんがために書かれたのではない。宗祖は七高祖のお念仏の伝承を私たちに知らさんために書かれたのではない。自分がよろこび、他の人に伝えるために書かれたのではない。じつはお念仏に出会って、ただはればれとお念仏をよろこばれたそのままだ、このお正信偈が出来上がったという一番の理由である。とおっしゃっているのではありません。それが「ただこれ知恩報徳のみ」と僧銘和上がいわれるおこころだといえるのであります。

雪ん子春の公演

3月29日



ことばの教室「雪ん子劇団」の春の公演は、三月二十九日、宇奈月町中央公民館で行われ、新作の民話劇「ちづる」や、八年目のロングランミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」などを上演。二百人の観客のつつさいを浴びました。

なかでも注目を集めたのは、民話劇「ちづる」。ご存知の鶴の恩返しのお話を劇にした「夕鶴」の子供版。ツルを助けた少年、清太のもとへ、ちづるという少女が訪れ、二人は仲良しになります。ところがある日、清太は重い病にかかります。助けるにはおじいさんとおばあさんが一年間働いても手の届かない高価な薬があると医者さまはいます。途方にくれる二人に、ちづるはいます。



「今夜は、はたを織らせて下さい」と。
織りあがった布は、生きたツルの羽千枚を使った、あやにしき。おばあさんも、となり町の反物屋も、殿さまも欲に目がくらんで、ちづるに何度も、あやにしきを織らせようとせまります。

人と人、人と自然とのかかり合いを問い直す詩情豊かな作品で、舞台は本格的なセットと照明。それに地元の門徒さん提供の民具や手づくりの衣裳や小道具。さらに鳥の研究家の大田保文先生のご協力で、山口県八代村のツルの記録映画を拝借という、かつてない大がかりなお膳立て。

演ずるは、清太役の大浦清和君と、子供役のはかは、今年卒業する六年生七人。とにかく、雪ん子の歴史に残る名演で、観客の涙をさそいました。上の写真はその舞台写真です。

このほか、雪ん子が世に問うロングランミュージカル「うちのとうちゃんえらいんだ」も迫力満点。さらに、おとぎ話うらがえしの「桃次郎の冒険」も、この一年間各地で公演しただけあって、じつに見事な出来ばえでした。

公演のあと、この一年で三つの表彰をいただいたその感謝のパーティを開きました。来賓で越下された、黒部警察の島崎長松次長は「防犯協会から表彰させていただきますでしたが、今回、私はこの目で雪ん子の皆さんのすばらしい劇を見て、感激の涙があふれました。じつは私もあの「ちづる」の劇を小学校時代にやった覚えがありますが、そのころのことを思い出して感無量でありました」とのお言葉。つづく京免豊作公民館長は「年々雪ん子はうまくなっているみたいですね。この公民館を大いに利用して、宇奈月の文化の担い手になって下さい」と激励の言葉をくださいました。

なお、この公演のビデオは左の広告の第一回作品につづいて、この五月一日から発売される予定です。是非ご覧下さい。

才劇ことばの教室
雪ん子劇団
公演ライブ／30分
頒価5000円(送料共)
カラー／30分

群衆
ことばあそび
手話ミュージカル
うちのとうちゃんえらいんだ

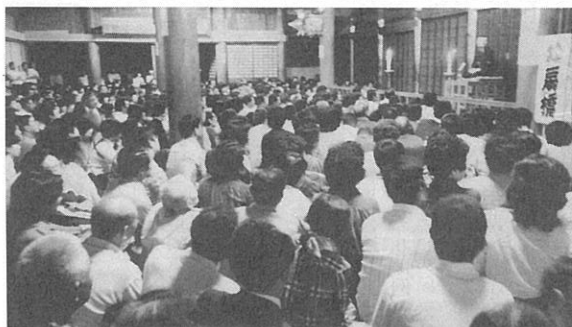


日本テレビ系TIME 21 (1月26日放送) でユニークな日曜学校教化活動として紹介

全国青少年教化協議会25周年表彰受賞、
第11回全国園長研修大会でも好評

テレビと個室で、生きた言葉は失いつつある子供達に、ことばのおもしろさや、人と人とのふれあいの大切さをさやかに訴えます。日曜学校・保育所・幼稚園などですぐに役立つ教材として、是非一度見ていただきたく、手作りビデオを制作いたしました。

お求めは——頒価5000円送料共を現金書留に郵便番号、住所、氏名、VHSかベータかを明記して、左記へお申し込み下さい。
〒938 富山県下新川郡宇奈月町浦山四九七
善巧寺内 雪ん子劇団
TEL 0765(63)00555



野休み落



口上

東西東西、皆様方には慈光の下
二利願行にご精励のこと、誠に慶
賀に存じます。さて、私共「宇奈
月夢を語る会」が主催してまいり
ました「六輔七転八倒・うらやま
野休み落語会」も、今年で数えて
十回目を迎える運びとなりました。
これひとえに、皆様方のひとか
たならぬご支援のたまものと心か
らお礼を申し上げる次第でござい
ます。

ふり返ってみますればこの落語
会、作家の永六輔氏と当山若院と
のご因縁で「地方に文化を。お寺
で落語を」と、始められたのが五

奉仕で、遠く江戸からお越し下さるからこそでできる寄席。ありがたいうこと。もったいないこと。

その上、この十年、評判は高まるばかり。寄席の原点、落語のダ

五五
三三
二二

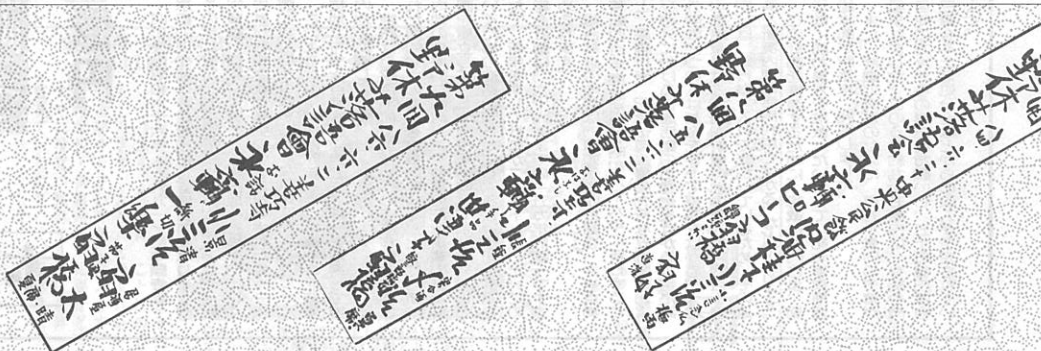
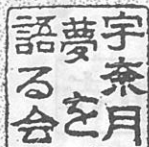
十二年の六月十日。以来十年、入船亭扇橋師匠、柳家小三治師匠をはじめ多くの一流芸能人の方々が「お寺は落語の名家。興行じゃないよ。法事だよ」と、まったくのこ

イゴ味を味わうなら、うらやまの野休み落語会を——と、地元はもちろん、県外からもお客様がみえて毎回四百人を越す満堂の盛況。うれしにかぎりでございます。

さて、そんな立派な会をお世話させていただいている「宇奈月夢を語る会」といえば、少人数で力なく、皆様のお力をお借りしなくては何もできない、名もなく貧しくなさけない会でございます。どうか今後とも出来るかぎりのご協力を。それと同時に、六月七日夜七時半、十回目の「野休み落語会」には是非ともお運びのほどを、すみからすみまで、ずいっと、お願い上げ奉ります。

夢の会 世話人

とき **6月7日** 夜**7時30分**
ところ **浦山善巧寺**
TEL (0765) 65-0011
会費 **2,000円**



年固十語



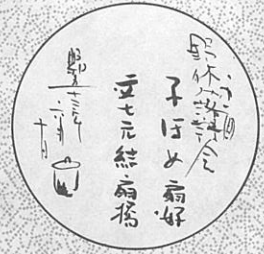
上
七
八
倒

野
休
み
落
語
云

出演 永 六輔・柳家小三治・入船亭扇橋

マルセ太郎・入船亭扇遊

演



春の総代会

3月20日

六十一年度決算
収入面では布施収入

善巧寺の春の総代会が三月二十日に開かれ、六十一年度の事業報告と決算報告を承認。六十二年度の子算を左頁のように決めました。六十一年度事業報告

お講は三日市（10・16）が総動員で活気を取りもどしたのがうれし

にニュース。報恩講まわりは例年通りの軒数ですが、日程に多少の変更を加えました。これは電車と徒歩で回っていた昔ながらの日程から、徐々に車まわりの流れに変えてゆこうという試みです。

また、白鶴会が仏婦研修会などに参加するなど動きが活発。夢を語る会では「狂言の会」（9・18）を成功させるなど新しい面を見せ、雪ん子劇団は県内外での活躍めざましく、三賞受賞で意気盛んです。



と会費（寺費）がやや予算より下回りましたが、支出面では目一杯の子算執行。結局、予備費一〇〇万円の予算分が分散され、結果は五五二、一四五円の繰越しとなりました。

六十七年度予算

前年度の決算をふまえて、ここ数年すえ置きになっていた一般会費（寺費）を門徒一戸当り、平均約千円値上げさせていただくことで収入をなんとかカバー。運営費や維持費はほとんど昨年並みにして、人件費を年三十六万円アップしていたことに決めました。

この人件費は住職、坊守、若院、若坊守に対する給与で、合計月額五十二万円だったのが、五十五万円になったわけです。

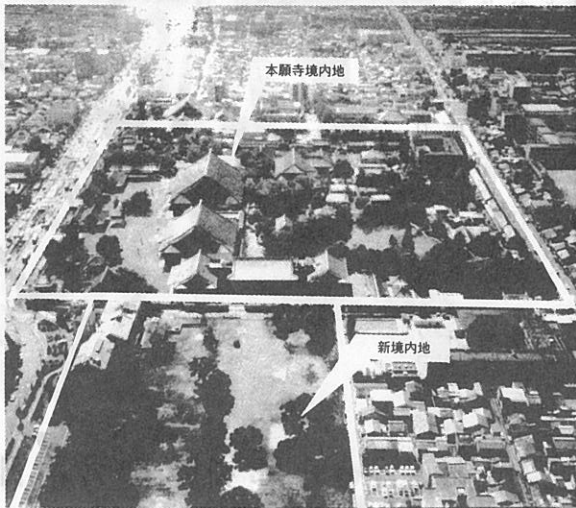
また、維持管理の問題として、鐘樓の補強か、新築かということが検討されましたが、今回は専門家に再度くわしく調査してもらうことで、具体的計画は見送りしました。

最後に下段に掲載した本山の寺基移転四〇〇年記念事業について話し合われましたが、善巧寺への進納依頼額は、およそ三三〇万円ですが、この計画が五カ年であることや、門徒の方の院号懸志の出方などを考えて、別途、各戸へ依頼することは見送りしました。

顕如宗主400回忌記念 寺基京都移転400年事業 総合計画スタート

昭和66年まで「5カ年計画」で

隣接地購入費含め予算150億円



（但し、新境内地については一部未購入（折衝中）を含む）

広がる境内地はばたく宗門

莫財にべし協力を!!

天正十九年（一五九一）、顯如宗主によって、現境内地へ本願寺（宝泉中心）の寺基が定められてからもうすぐ四百年、堀川通り（左側の通り）から大宮通までを占め、さらに昨年七月には北側隣接地（写真下）に広がる二万一千六百平方メートルの境内地を、二倍に広げた。また、寺基移転四百年を目前に控えて、境内地を充てる意気は大きく、宗門は総合計画を構立し、今年から二十一世紀へ向けてはたかこつている。

21世紀への宗門発展の契機に

四年後の昭和六十六年（一九九一）に本願寺は、京都の現在地へ（寺基を移転して）四百年になります。その年はまた、織田信長との「石山戦争」を経て「紀州繁栄」貝塚、天満そして現在地へとめぐるしく寺基が移転された歴史の中で苦勞された十一代顯如宗主の四百回忌にあたります。このような中、宗門は昨年七月に本願寺の北側隣接地（一万六千六百平方メートル）を取得して境内地を拡張しました。

宗門は、四百年前に現在地へ（寺基を移転）を実現された顯如宗主の遺徳を追慕顕彰するとともに、新境内地の効果的な利用方法や各種の記念事業の基本計画を策定して、二十一世紀へ向けて宗門が発展していくための進路を明らかにしようという総合計画を立て、新年を期して計画がスタートしました。この総合計画は、六十六年までの「五カ年計画」です。

総合計画の内容は、（一）顯如宗主四百回忌・寺基京都移転四百年慶讃法要を昭和六十六年に修行すること。（二）慶讃行事、記念伝道文書の刊行。（三）国内および海外における伝道活動の活性化をはかる。特に海外開教については基金を作つて振興をはかる。（四）大谷本願無量壽堂の増築（四新境内地の購入費（約百十億円）は、銀行借入れで支払つていくため、その返済は新境内地の活用利用をはかる、などあります。この計画を推進するために、総院に前門さま、副総院に前向方さまを推薦（たい）して、記念事業推進本部が昨年、発足しました。

また、計画の完結のために、百五十億円の予算が組まれました。このうち約九十五億円は、寺院や門信徒の方からの懸志をお願いし、十五億円は自己資金や土地処分金などの収入が予定されています。

本願寺

61年度善巧寺一般会計報告

(収 入)		(予 算)	(決 算)
1. 緑 越 金	入	1,478,170	1,478,170
2. 布 施 収 入	要 事 銭 入	8,600,000	8,272,685
門 徒 法 行		7,300,000	7,005,335
年 中		700,000	710,695
賽 雑 収		350,000	351,655
3. 会 特 別 懸 費 志 入		250,000	205,000
4. 雑 収 入		3,500,000	3,367,000
5. 合 計		300,000	300,000
		41,830	37,000
		13,920,000	13,454,855
(支 出)		(予 算)	(決 算)
1. 人 件 費	費	6,240,000	6,240,000
2. 運 営 費	費	4,325,000	4,344,535
法 教 寺 車 会 接 雑	要 化 務 費 議 待 費	1,600,000	1,762,022
3. 維 持 費	費	800,000	799,244
宗 営 保	費	850,000	852,412
予 合	費	570,000	539,287
	費	200,000	154,600
	費	155,000	149,970
	費	150,000	87,000
	費	2,355,000	2,318,175
	費	550,000	537,200
	費	1,640,000	1,622,650
	費	165,000	158,325
	費	1,000,000	0
	費	13,920,000	12,902,710
	費	※差 引	+ 552,145

62年度善巧寺一般会計予算

(収 入)		(支 出)
1. 緑 越 金	入	費
2. 布 施 収 入	要 事 銭 入	費
門 徒 法 行		費
年 中		費
賽 雑 収		費
3. 会 特 別 懸 費 志 入		費
4. 雑 収 入		費
5. 合 計		費
		13,630,000
		6,600,000
		4,325,000
		1,700,000
		800,000
		850,000
		570,000
		200,000
		155,000
		50,000
		2,365,000
		550,000
		1,650,000
		165,000
		340,000
		13,630,000

三月一日 日曜日。終日 雪。
お講と日曜が重なって、今日は
法事が二つある。析沢から十人。
八時からおつとめ。「寒いから、充
分着て」との注意に、チョッキ二
枚重ねて、本堂へ。下巻の東方偈
を上げる。引続いて音沢から六人。
九時からおつとめ。観経を上げる。
しばらく休んで十一時半から浦山
のお講のおつとめ。小経をあげる。
終ってお説教。降る雪の中だが、
四十数名のお参りがある。昼食後、
書齋に入る。相かわらず雪が降っ
ている。椅子に腰かけて外の雪を
無心に眺めていると、時々ドサツ
と杉の積雪が落下する音にハッと
する。今年は暖冬で庭の積雪ゼロ

だったところへ、昨日あたりから
真冬の寒さに逆戻りで、今のところ
四十センチは積っているだろう。
午後の時間を寺報「善
巧」の原稿書きに当て
ることにして、原稿用
紙を取り出して机に向
う。二百字詰五枚の原
稿なのに、今日は何と
なく気分が乗らず、最
初の一行の筆がおろせ
ない。書くべきことが
頭の中ではまとまっ
ていない。兎に角、自分の文章が一
応活字になるのだから、いい加減
に筆をおろす訳にはいかぬ。書棚



住職日記

の前をウロウロして、志賀直哉全
集の一冊を取り出して見る。
「此リズムが弱いものは幾ら「う
まく」出来てゐても、
幾ら偉いような内容を
持ったものでも本當の
ものでないから下らない。
小説など読後の感じで
はつきり分る。作者の仕
事をしてゐる時の精神の
リズムの強弱——問題
はそれだけだ。」
今のようなりズムを
感じられぬ時は、昔は煙草をふか
し、コーヒを飲んだものだっ
たが、禁煙二十五年、コーヒも目
下ドクターストップと言うわけ

食堂へ行って玄米茶の熱いのをす
する。中々気分転換が出来かねる。
今日は、原稿は止めにして孫たち
と一緒にテレビを見ることにする。
富良野スキーワールドカップ男子
大回転をやっている。中々面白い。
スイス、西ドイツの選手が活躍し
ている。スキー競技を見るのは札
幌オリンピック以来である。六時、
家族七人全員揃って夕食。食欲だ
けは旺盛。九時就床。
テレビ「タイム21」を見て
二人旅 美濃越路みな冬は度
冬の旅 大きき寺に着きにけり

寺
こよみ

六月

一日 お講・東狐・上野
一日 お講・音沢
六日 お講・音沢
七日 野休み落語会
今年でなんと十年目。浦山だけ
でなく、いまや県内外から待ち
こがれられる名物行事となりま
した。永六輔さんのおかげ。扇
橋、小三治両師匠のおかげ。そ
して集まって下さる皆さんのお
かげです。今回は十回目とい
うことでお客様には記念品を出す
ことにしています。お楽しみに。

白鶴会新年会

2月10日

白鶴会の新年総会は二月十日に開かれました。仏参、法活聴聞のあと総会、事業・会計報告を承認し、新年度は①白鶴会は寺の閑法団体であるという自覚を高め②子や孫や世界への奉仕の心を忘れず

③会員相互の親ばくを深めるという三つの柱で、積極的な活動を展開することになりました。

なかでも五月三十一日の北陸ブロック仏婦大会への参加は、今年の大きな事業の一つ。この大会を



縁に「団旗」もつくる計画です。また、この日は、総会のあと、例年のように親ばく会を開きました。これがまた、たいへんなに

太子会

3.10



聖徳太子の遺徳をしのぶ恒例の太子会が三月十日、勤まりました。寺の総代さんや建設関係の方などが集まら

ざわい。雪ん子劇団顔負けの演技派女優の勢ぞろいで、歌あり、踊りあり、劇ありと、じつにたのしい宴会でありました。

本堂では、門徒の太子サマ法要と同じく、大鼓や鉢や銅鑼の鳴り物入りのおつとめがあり、みなで焼香、住職の法話を聞きました。

このあと、寺の建て物についての話し合いがあり、鐘楼についての意見がのべられました。かなり老朽化している鐘楼ですが、新しくするのか、補強するのか、それともこのまま保存するのか結論をいそがず、時間をかけて研究しようということになりました。

いま、お経が面白い！

見るお経、楽しく、美しく、わかりやすい！



お申し込みはお寺へー。

善巧寺の常例行事

お花の会	夢の会	雪ん子劇団	日曜学校	お日曜講
毎月第一・第三土曜日	毎月第一土曜日	毎月第二土曜日	毎月第四日曜日	毎月一日・十六日

合 掌

春めいて、新学期ー。次男の教隆がこの春中学一年に。長男の俊隆は中学二年生。そして長女の有花は大学一年生で東京へ。

おとなりの高島さんちは、二女の奈緒子さんが高校一年に。長女のひとみさんは大学三年生。そして、神子さんちは娘の一英さんが、大学二年生。次男の巧さんが、大学を卒業して仏教学院へ。長男真さんはビジネスマン二年目…。

善巧寺ファミリーもとうとう、小学生が一人もいなくなりました。「オヤオヤ、もうすぐだね」

「何が？」
「ほら、神子さん、高島さん、雪山さん、今度はだれが先に、おじいちゃんになるか…！」

そんな中、今年もお寺の日曜学校や雪ん子劇団に、かわいいう新入生がやってきます。めぐりめぐりて、春ですなあ…。

